

学校の概要

| | | | | | | | | | |
|-----|-----------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 鮭川村立鮭川小学校 | | | | | | | | |
| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 8 | 13 |
| 児童数 | 26 | 19 | 31 | 23 | 22 | 29 | 3 | 153 | |

研究の概要

1. 研究主題

学力向上をめざし、学ぶ楽しさを実感していく子どもの育成
～「学び合い」を大切にした授業づくり～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・算数全学年（TT指導 3年、4年、5年、6年）
- ・国語全学年（TT指導 1年、3年、6年）

<実施学年及び教科を選択した理由>

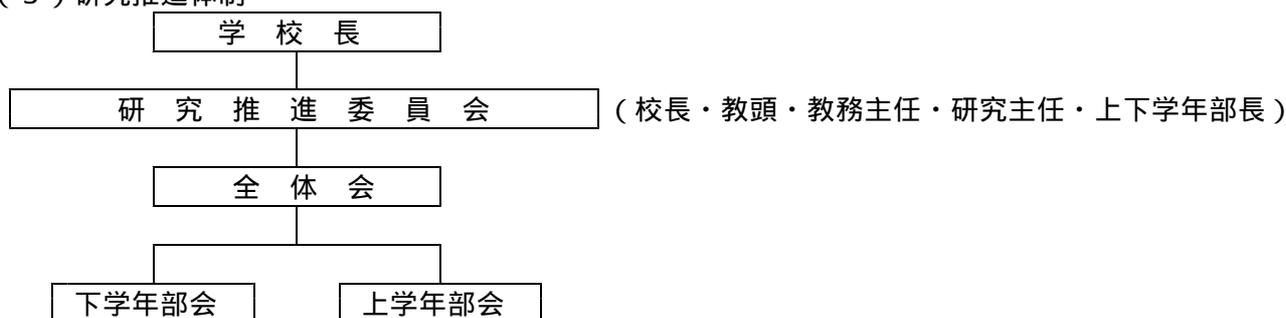
- * TT指導初年度なので、比較的進めやすい国語・算数の基礎教科にしばった。
- * 学級の人数、学習内容、昨年のCRTの結果、発達段階、クラスの間関係を考えてTT指導の実施学年をしばった。

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>研究テーマ(重点内容) 一人一人を大切に「分かる授業づくり」 ～「学び合い」を大切にしながら～</p> <p>研究の見通し(仮説) 生徒指導の三機能(存在感・自己決定・共感的理解)との「かかわり」を生かした授業づくりを通して、学力の向上をめざす。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TT指導の積極的実践で多面的児童理解と教師自身の指導力向上をはかっていく。 ・ 「学び合い」を班学習等で行い、生徒指導の三機能を生かしながら「思いやりの心」と「分かる喜び」を育てていく。 ・ 学習環境の整備・工夫により、学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ態度を育成していく。 ・ 「はげみ学習」の年間指導計画を作成し、国語と算数の基礎学力の定着をはかっていく。 ・ 朝の「全校一斉読書」を充実させ、学力向上の基礎となる読書活動を推進していく。 |
|--------|--|

| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>研究テーマ(重点内容) 一人一人を大切に「分かる授業づくり」 ～「学び合い」の充実をはかりながら～</p> <p>研究の見通し(仮説) 「学び合い」を生み出す授業づくりを通して、児童一人一人に「生きる力」を育てていく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学び合い」を充実させるTT指導により、学力の向上をめざしていく。 ・ 思いやりの心を育み、分かる喜びを実感できる班学習の充実をはかっていく。 ・ 学習環境の整備・工夫とともに班学習の充実により、学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ態度を育成していく。 ・ 児童一人一人の学力の向上をめざし、発展的な学習と評価活動についての研修を深める。 ・ 家庭との連携を深め、基本的な生活習慣と家庭学習の充実をはかっていく。 |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



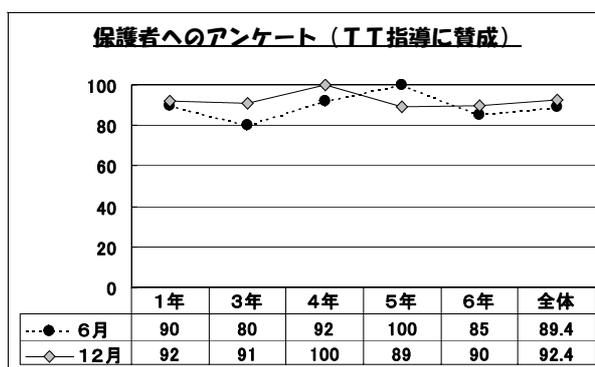
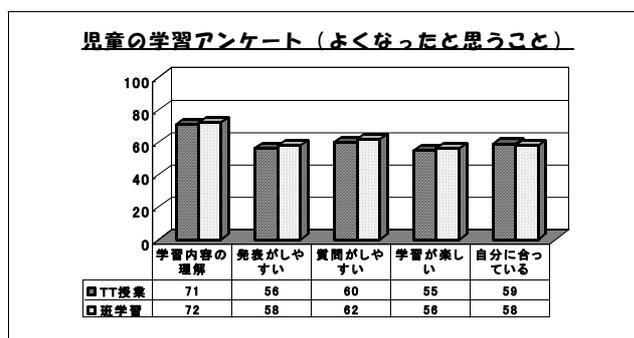
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 教研式標準学力検査(CRT)の結果から (数値は昨年度比)

| | | | |
|-----------|-------------|-----------|--------------------|
| 国語科領域別得点率 | 「話すこと・聞くこと」 | 4年(+6.9) | 6年(+5.7) |
| | 「書くこと」 | 3年(+2.4) | 5年(+3.5) |
| | 「読むこと」 | 4年(+7.3) | 6年(+15.2) |
| 算数科領域別得点率 | 「数学的思考方」 | 6年(+8.7) | |
| | 「表現・処理」 | 6年(+20.2) | |
| | 「知識・理解」 | 3年(+2.1) | 4年(+11.5) 6年(+5.1) |
| 平均得点率 | 国語4観点 | 4年(+4.1) | 6年(+4.1) |
| | 算数3観点 | 6年(+11.3) | |

(2) TT指導、班学習などの授業改善にかかわる児童・保護者の意識調査の結果 (%)



(3) 児童の姿から

TT指導の導入は、児童の「学習意欲の喚起」につながった。

- ・ 机間指導で座席表を活用しながら、児童への言葉かけと即時対応・評価を心がけたことが、児童一人一人に「安心感」と「存在感」を育み、自信をもって学習できるようになってきた。
- ・ ギャングエイジの3年生では、31人を生活班ごと2グループに分け、2人の教師が異なる教室で学習を進めた。教師とのかかわりや操作活動の時間が多く確保できたことで、落ち着いて取り組むことができた。友だちとの交流が深まり、思いやりの心も育まれた。

(4) 教師の姿から

TT指導の導入は、教師自身の「意識改革」、「学び合い」につながった。

- ・ 単学級で1クラス20～30人、1年担任以外は全部持ち上がりということもあってか、「TT指導は授業がやりにくい。」「打ち合わせ等がかえって忙しくなった。」「どこまで関わればいいのか難しい。」等不満や悩みが多く出た。研修を積むことで、学級を開き授業を見せ合うことや子どもの姿を語り合うことが、「学力向上」「指導力向上」につながることに気づいてきた。
- ・ 多忙な毎日であるが、T1とT2の打ち合わせ時間の確保が、「多面的児童理解」と「授業改善」には大切であることを学んだ。

2. 今後の課題

- (1) 教研式標準学力テスト(CRT)の結果をふまえて
 落ち込んでいた領域、内容は今年度中に補充指導を徹底していく。
 3年国語「話すこと・聞くこと」(全国比89) 6年国語「言語事項」(全国比89)
 4年算数「量と測定」(全国比91) 6年算数「量と測定」(全国比73)
 国語4観点、算数3観点学習状況(3段階評定)で「1」の児童には、個別指導していく。
 国語(1年;8%、3年;10%、4年;9%、5年;5%、6年;4%)
 算数(1年;4%、3年;3%、4年9%、5年;9%、6年;14%)
- (2) 児童一人一人の学力向上と教師自身の指導力向上をめざして
 きめ細かな指導の充実をはかる指導体制・指導方法を工夫していく。
 ・TT指導では、事前、事中、事後の「打ち合わせ時間」を大切に授業づくりをする。
 ・少人数学習では、生徒指導の三機能を生かした授業づくりをしていく。
 ・学級の実態を細かに把握し、児童一人一人に学習の成就感を育み、学力向上につながる教材開発に努める。
 自立と共生を育む学習環境を整理する。
 ・学校という「組織」のなかで子ども一人一人を育てていくという考えを大切に、教師の意識改革をはかり、研修を深めていく。
 ・学力向上の基盤は学級経営にあり、班編成の仕方や班学習の進め方、班学習の場の工夫等を考えながら、生活班による「班学習」を積極的に活用し、「学び合い」の充実をはかっていく。
 ・児童がのびのびと活動できる行事、教師がじっくりと語り合える時間の確保等、ゆとりと充実を生む日課表と年間計画の工夫と改善を進めていく。

学力等把握のための学校としての取り組み

| | | |
|---|-----|-------|
| 標準学力検査(NRT)の実施 | 年1回 | 4月実施 |
| 教研式標準学力検査(CRT)の実施 | 年1回 | 1月実施 |
| TT指導、班学習などの授業改善及び教育課程編成の効果にかかわる児童・保護者・教職員の意識調査の実施 | 年1回 | 12月実施 |

<調査の目的>

- ・客観的な評価を真摯に受け止め、見える学力を磨いていくため。
- ・児童や保護者、教職員の実態や思いを把握し、指導の改善工夫を進めていくため。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

| | |
|---|---------------|
| 最上教育事務所学校経営計画訪問指導 | 平成15年10月29日実施 |
| 授業研究会(年4回実施、平成15年度;6/11,6/29,1/26,2/12) | 村内小中学校へ案内 |
| メディア教育研究協議会 山形県大会授業提供 | 平成16年11月11日予定 |
| ホームページ作成は、今のところは予定なし | |

| | | |
|----------------------|----------------------------|-------------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度から継続校 |
| 【学校規模】 | 6学級以下 13~18学級 25学級以上 | 7~12学級 19~24学級 |
| 【指導体制】 | 少人数指導 一部教科担任制 | T・Tによる指導 その他 |
| 【研究教科】 | 国語 社会 生活 音楽 体育 その他 | 算数 理科 図画工作 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 | 無 |